

現業・公企統一闘争速報10/20号

現業・公企 職場環境の改善をめざし 統一闘争 全国の仲間とともに交渉を



府中市職員労働組合（広島）

（写真上・下）腕章をまいて団結し、要求を訴える交渉団



八王子市職員組合（東京）

社会情勢の変化により、住民ニーズが多様化・複雑化する中、現業職場ではこれまで以上に様々な業務を担うことが求められる。あわせて、災害対応など現業職員が果たす役割はますます大きくなっている。

一方、各現場では退職不補充などによる慢性的な人員不足や施設の老朽化などの課題を抱え、安定的な公共サービスの提供体制は危機的な状況となっている。

現場の課題を解決するためには、要求書を提出し、交渉を積み重ね、納得する回答を当局から引き出す以外にないことを再確認し、統一闘争への結集が重要。

2023闘争では、人員確保をはじめ、多くの成果について、各単組から報告がされた。

引き続き、2023現業・公企統一闘争にすべての単組、組合員が結集し、取り組みを強化しよう。

現業・公企統一闘争第2次闘争の全国統一行動を翌日に控えた10月19日、14県本部73単組が闘争を展開した。

ヤマ場当日は、9県本部及び自治労本部は単組の交渉を支援するため、交渉終了まで待機態勢を配置した。

20日、午前1時40分を最後に全ての単組の交渉が終了した。

本日時点での取り組み状況は、38県本部416単組が要求書を提出し、34県本部239単組が今後、要求書を提出する予定。

また交渉状況では、19日までに22県本部173単組が既に交渉を実施し、41県本部423単組が今後、交渉実施を予定している。

粘り強い交渉により 新規採用を獲得



自治労大牟田市職員労働組合（福岡）

現場の仲間とともに交渉に臨み、回答を引き出す

いますぐやってみよう

①



②



①現業職員が

配置されている単組用

②現業職員が

配置されていない単組用